会員の広場	2023年5月１日発行メールマガジン第３４号

はじめまして。

４月から入会させていただきました藤井と申します。

若いころに行ったオーストラリアの動物に魅せられ、野生動物や保護活動に興味を持ちました。いつか保護された動物の赤ちゃんのお世話をしたい、という夢があります。（実現は難しそうですが…）

１０年程前から千葉市動物公園のボランティアを始め、その活動を通して野鳥観察に出会いました。身近な自然をよく観察してみると、とてもたくさんの鳥がいて、それぞれ違う季節にやってくる…知れば知るほど楽しくて、のめり込んでいきました。初めて見た鳥の名前が知りたくて、カメラを購入して写真も撮るようになりました。自宅の周り、花見川沿いや花島公園などが散歩コースです。

土管の中のハクセキレイとイソシギ

花島公園のカワセミ

千葉市動物公園のボランティアでは、バードウォッチングチームとして活動しています。園内の大池にやってくる冬鳥を中心に観察を続けてきました。最近は、鳥だけではなく植物や昆虫などの生きものについても観察しています。園内で飼育している動物だけではなく、自然の中の見どころを来園者に紹介できたらと思っています。

ＮＡＣＳ－Ｊの講習会には、今後の活動に向けてもっといろいろな知識を身に着けたくて参加しました。今回自然観察ちばに入会させてもらったことを機に、いろいろな観察会に参加させていただいて楽しく学んでいきたいです。これからよろしくお願いいたします。　　（藤井　佳代　　千葉市）

オーストラリア野生のウォンバット

千葉市動物公園　大池のオシドリ

花の香りに包まれてムシ探し①

～アカシアの花が咲くフィールド～

５月の上旬、私は、行楽地に向かう車の渋滞情報をラジオで聞きながら若葉区のフィールドに向かいます。人の目を気にすることなく、陽射し、空気、若葉、花の香、ムシたちを堪能するためです。

フィールドでは、花を訪れる蝶の他に甲虫にも目を奪われ、私は「昆虫の大爆発だ！」などと意味不明の言葉を発しながら林道、林縁、雑木林の中、草地を巡ります。

アカシアとジャコウアゲハ

昆虫大爆発：林道／ハナムグリの楽園

ハナムグリ

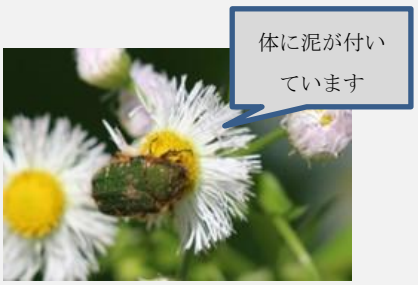
アオハナムグリ

コアオハナムグリ

※ハナムグリとアオハナムグリの識別はとても難しいです（汗）

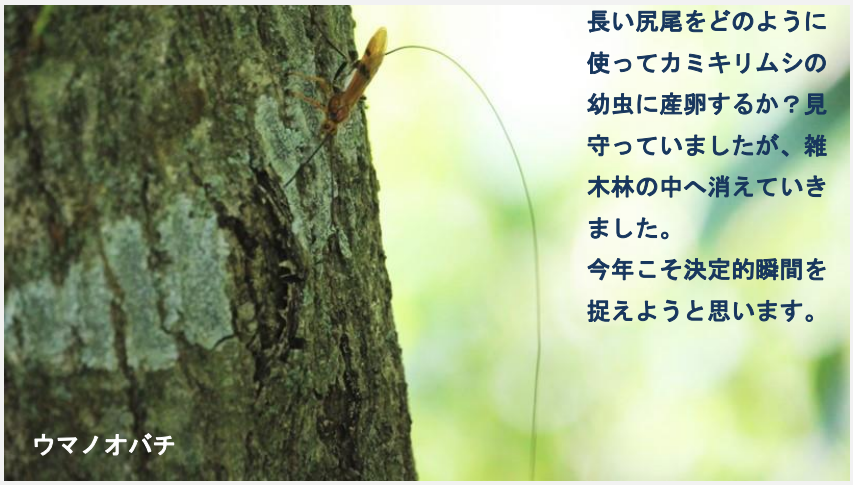
クロハナムグリ

ヒメトラハナムグリ



冬眠から目覚めて間もない個体

昆虫大爆発：雑木林の中


ウマノオバチ

長い尻尾をどのように使ってカミキリムシの幼虫に産卵するか？見守っていましたが、雑木林の中へ消えていきました。
今年こそ決定的瞬間を捉えようと思います。

ナナフシ（幼虫）

オオゾウムシ

スカシノメイガ

ウスムラサキノメイガ

マエベニノメイガ

昆虫大爆発：林縁

大きさが 10 ミリ前後の小さな甲虫たち、とても敏感で観察しようと近づくとすぐに逃げてしまいます。

ヒシモンナガタマムシ

翅を開くと青く輝く腹が現れます。

ヒメクロオトシブミ

産卵中のクロボシツツムシ

卵を糞で包み、地上に産み落とします

クロナガタマムシ

葉から葉へぴょんと飛び移ります。

ゴマダラオトシブミ

パラルリツツハムシの交尾

ヒメクロオトシブミ、ゴマダラオトシブミは、揺籃（落文）を落とさないオトシブミです。

昆虫大爆発：ツツジ劇場の「舞い手」たち

ツツジ劇場を駆け上るアゲハ

カラスアゲハ

花の色に染まるベニシジミ

＜休憩中の訪問者＞

アカシアの花の香りを愉しみながら休憩していると、「何しているの？」と声をかけられました。

タヌキ

キマダラヒカゲ

キビタキ

西野孝法（千葉市）

クマガイソウ案内騒動記

私たちが手入れしている竹林のクマガイソウは 357 輪咲くまでになり、昨年から一般公開しています。
公開に当たっては事前予約など一切無しで、口コミで現地に来た人だけを受け入れる事にしました。
とは言え全く自由に立ち入られても困るので、竹林前に受付のデスクを置きテントも設営しました。
騒動の始まりは公開日の見込み違いです。前年並みの１６日からスタートで準備しましたが、３月になると急に温度が上がり、ソメイヨシノの開花予報も例年に無い早さと報道されるようになりました。
クマガイソウは３月半ばに発芽したと思うと、あれよあれよという間に急成長して４月初旬から蕾が膨らんできました。急遽、公開開始を 10 日も前倒しせざるを得なかったのが騒動の始まり。
その結果、私にとっては前もって決まっていた内視鏡による検査入院の日と重複する日が出来てしまい、その間に案内してくれる代役探しが騒動その２。検査結果は異状なしで一安心。
一般公開が始まると連日 50 人前後が五月雨式に来るので、その対応に追われるのは覚悟の上で騒動にあらず。
そもそもクマガイソウといえば盗掘問題が付いて回るので、自生地情報は隠すのが常識、一般公開など正気の沙汰ではないと誰もが心配する中で、敢えて公開に踏み切ったのは私たちの管理する自生地が誰でも自由に通れる散策路に面していて、沢山の花が咲けば竹林の外から丸見えとなり、とても隠し切れません。

ならば一般公開して間近で花を見てもらうと同時に、蜜を出さないこの花の巧妙な受粉の仕掛け、特殊環境での発芽など奇想天外な生態。
更に佐倉一帯の自生地が遺伝子の多様性に於いて国内断トツであり、種の保全上で重要な地域である事などを知った上で盗掘防止の一翼を担ってもらいたいと思う為です。
とは言え、来訪者の目的は珍しい花を見て写真にする事しか頭に無い人が大部分ですから話を聞いてもらうのが一苦労です。
それでも話が終わると面白かった、保護の苦労が分かったなどの反応があれば目的は達成です。
期間中に案内した累計は 631 人、中には何だこりゃの発言もあって絶句します。その一例を紹介します。
問題の男女は夫婦とお見受けしましたが、若いのに二人ともプロ用超高級カメラに望遠レンズをセットして総額数百万と思われる代物を担いで来ました。野鳥撮影のついでに立ち寄ったのでしょう。
他にも見学者が居たので皆さんの撮影が一段落した頃を見計らって花の前に集まって、私の話を聞いてもらう事にしました。例の男女は望遠レンズなので 10m ほど離れた場所から撮影していました。
聞いて貰いたい話があるから近くに来てくれと言うとここでも聞こえるから大丈夫と言うのです。
話し始めると、その男女は何やら関係ない話をし始めましたから最初から私の話など聞く気は無いようです。
私語が他人の邪魔になるので、もう一度こちらに来てくれと言うと、聞いてやるから話は短くしろと注文を付けました。続きを始めると「要するに自然が大事という事だろう」と話の途中で捨て台詞を吐いて出て行きました。
親の七光りか株か IT 産業などで大儲けのご仁かも知れません。どんな高級カメラがあっても被写体がそこに無ければ何も写せません。被写体のクマガイソウを誰が何のために世話しているのか考えもせず金さえあれば何をしても良いと傍若無人ぶりを発揮したのでしょう。困った若造でしたが、会員の広場の原稿ネタを提供してくれた思えば元は取れた気がします。

佐倉市　坂本文雄

ふるさとの訛なつかし

市内里山ボランティア団体の主要メンバーが集まり、懇親会の場で出身地の話になった。メンバー10人のうち新潟県の出身者が4人もいたことに驚いた。十日町市、村上市、三条市、長岡市と出身地の話題で盛り上がった。

出身地の新潟県から遠く離れた松戸市内に居住し、ふとしたことから新潟県出身者に出会えるなんてと、ほんわかしたムードが漂い、別の県の出身者もゆったりした気分に浸れたのでした。

先日の観察会で、道を歩きながら、「小さい頃から植物や昆虫が好きだった」という話から幼少期の話題に進んだ。一般から参加者を募る観察会なので参加者の住まいは近所だと分かっていても出身県まではわからない。その方は植物や昆虫が詳しかった。十和田湖の麓で降雪時には立ち入り禁止になる地区のそばで暮らしていたという。だから、植物も昆虫も動物も遊び相手だったという話だった。

私は両親とも青森県の太平洋岸の街出身といった途端、相手の喋りが南部弁に切り替わった。まさに、スイッチが入ったようにスムーズな入りだった。

「青森ってへれば、津軽弁が有名だども、おらほは南部弁」と南部弁交じりで話が進んでいく。南部と津軽の対立構造も何となく話の中に出てくる。津軽弁を操る人は別の立場になるのです。

新幹線から東北本線やローカル線に乗り換えて人々の声が、「どんだっきゃ（どうだろう）」「いかべ（いいでしょう）」などと聞こえてくる時、突然スイッチが入るらしい。

そうだねと言っていると、別の県の出身者が口をはさんできた。新潟県人だ。「新潟の降りる駅に停車して扉が開いた途端にスイッチが入る」そうだ。

私は両親は青森でも、生まれも育ちも違う県で、これまでの生活圏内で南部弁との付き合いはほとんどない。なぜだか、「しゃべれるし、相手の言葉がわかる」。

里帰りしたシャシャン

青森県の二か所の街で青年団の調査をした大学生の時、見よう見まねの南部弁を使って古老からの話を聞き取った。標準語よりは親しみが増すのではないかという作戦だった。すると、古老から「あんたはどこの出身だ」と見破られて作戦は失敗に終わったことがあった。付け焼刃はいかんと思った。

ふるさとの訛りが懐かしくて、上野駅を訪れたのは石川啄木だが、出身県の訛りは普段はどこにしまってあるのか、脳の中は不思議な構造だ。

（松戸市　藤田　　隆）

植物雑感『トチノキ』栃ノ木・ムクロジ科トチノキ属・ Aesculus turbinata

5 月のこの時期にはトチノキが、穂状の白い花が枝先に一杯咲きます。樹が大きい為か花は見上げる様にしないと目に入らない感じです。葉は掌状複葉で大きく、枝も太く頑丈な感じです。私は 4 年程前ですが、大学のクラス会の集まりが青森県の酢ケ湯温泉であり、折角そこまで行くなら、近くの奥入瀬渓流を歩いてみたいと、JR 八戸駅からバスに乗り、石ヶ戸バス停から渓流に入った所には、あちこちに沢山の大きなトチノキがあり、たわわに三角状の花を咲かせており、トチノキの花が私を歓迎してくれていると思い、嬉しく感じました。
トチノキは図鑑には渓谷沿いの適湿で肥沃な土地を好み、東北地方に多いとありましたが、さすがに適地を得た樹木はこんなにも立派な姿になるのかと思いながら渓谷を歩きました。この樹は、大きくなる樹木で、花は直立した 25cm 程の三角錐の総状花序は豪華な姿でした。田中肇「花の顔」には、花は直径 1.5cm 程、白色の花弁が 4 枚、上の 2 枚には黄色か赤色の斑点がある。花は 8 日間ほど咲き続けるが、花びらの斑点が途中で黄色から赤に色を変える。5 日までは蜜が分泌されてるが、6 日目を過ぎると斑点が赤になりもう蜜がないという信号とあります。花は百数十個ある、花序の殆どが雄花で花序の下部に両性花がつきます。

学研の日本の樹木には、「渓流沿いの植物の移り変わり」の説明に、冷温帯の森林は、一般にブナなどが優占するものに移り変わってゆくが、渓流沿いで湿り気があり、肥沃な土壌が堆積している場合には、一般的な移り変わり（遷移）とは異なり、トチノキやサワグルミが優占する、と書かれてあります。このような森林を土地的極相林というそうです。

栃の木は 9 月頃に直径 3～5cm の立派な果実が実ります。果実は熟すと３裂し、中には光沢のある褐色の種子があり、地上に落下します。落下した種子はリスやネズミなどの食糧になり、彼らは落ちた地点から種子を運び出して、巣穴や土の下などに貯蓄する。小動物による二次散布で、トチノキのような大形の種子も分布を広げることができるそうです。
栃の実は大きく、デンプンの他にタンパク質を多量に含んでおり、昔より山村の救荒食糧とされていました。しかし、種子にはサポニンやアロインなどの物質を含んでいて毒性があり、苦みが強く、そのままでは食べられず、木灰と一緒に煮たあと、水に長く晒したりして、丹念に灰汁抜きして食します。もち米と一緒に臼でついたトチ餅は、結構おいしいです。昔より山村ではトチの実を俵に入れ、天井裏に 10 年も貯蔵したとあります。

花はミツバチの蜜源として重要であり、特有な風味を持つ良質なトチ蜜の蜂蜜がとれる。
材は木目が美しく光沢があり、広幅材が取れるので、そば打ち用の木鉢や楽器材（バイオリンの裏甲板）、建築材に使われるなど、利用範囲の広い樹木です。

小島紀彦（我孫子市）

杉田久女　「仰ぎ見る樹齢いくばくぞ栃の花」
松尾芭蕉　「木曾のとち浮世の人のみやげかな」
小林一茶　「橡の実や幾日ころげて麓まで」